

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和7年4月16日現在

研究課題名	現代ロシアの戦争映画：ソ連戦争映画の痕跡と新しい展開	
申請者	氏名	所属機関・職
	前田しほ	島根大学・准教授

研究成果の概要

申請者は、ソ連の戦争記憶を記念碑、文学、映画、ポスター、絵画等を対象に研究しているが、国際情勢が悪化したことにより、ロシア・ウクライナへの現地調査が困難となった。そこで、現地調査を必ずしも伴わずに、現代の戦争記憶の実態の解明にせまる方法として、映画に着目した。ロシアはソ連時代から戦争映画が膨大に作られているが、あまりに数が多いため、全体像がつかむのが難しい。ただし近年はデジタル化、合法的な動画配信が進み、現地での資料収集を必ずしも必要としない状況にある。今回の研究課題では、現代とソ連時代を比較する前段階として、ソ連時代の映画における戦争映画の位置づけや作品情報を調査することを目的として、2024年7月に滞在し、図書館での資料収集を行った。本務校にはロシア語文献の所蔵がなく、スラブ・ユーラシア研究へのアクセスもほとんどないため、北海道大学が所蔵している雑誌・図書、本務校が契約していない電子ジャーナルに投稿されている最新の研究動向を調べることができるので、大いに助かった。

9月に下記のジェンダー史学会大会シンポジウムに登壇した際には、このときに収集した資料から裏付けを得て、新しい知見を反映することができた。

また、本研究課題は、2025年に採択された下記科研費基盤（B）とも関連しており、今後は共同研究の中でも展開する予定である。

最後に、施設設備の使用をはじめ快適な滞在をサポートいただいたことに感謝申し上げます。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

前田しほ「ソ連の女性兵士表象：戦争神話としての映画を中心に」、日本ジェンダー学会第28回大会シンポジウム「女性兵士とジェンダー」2024年9月28日、追手門学院大学（招待）

※本発表の内容をもとに論文を準備中

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

基盤研究(B)（一般）「(ポスト) ソ連と朝鮮半島の戦争体験の継承：記憶、表象、感情のポリティクス」（研究代表者：前田しほ）（2025年～2028年）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。